

東京都 公立高校の入試制度

【2024年度版】

入試概要

- 東京都の公立高校入試には、主に**推薦選抜**、**第1次募集**、**第2次募集**があります。
1次と2次で定員を分けて募集する場合は、分割前期募集、分割後期募集と呼びます。
- 通学区はなく都内のどの高校でも受検することが可能で、全日制は推薦と第1次（分割前期）の**2回の受検機会**があります。※島しょを除く

2024年度 入試日程	出願期間	検査日	合格発表
推薦選抜	1/12(金)～18(木)	1/26(金)・27(土)	2/2(金)
第1次・分割前期	1/31(水)～2/6(火) (取下13・再提出14)	2/21(水)	3/1(金)
分割後期・第2次	3/6(水) (取下7・再提出8)	3/9(土)	3/14(木)

- 出願は基本的に1校1学科(コース)のみですが、同一学科内に2科(2分野)以上ある場合は、一般推薦は第2志望を、第1次募集・分割前期募集は志望順位を指定することができます。
※芸術に関する学科は除く

調査書

- 各教科の評定と、観点別学習状況の評価を併記しているのが特徴です。
中3の12月末の成績が用いられます。

- ・各教科の評定・・・必修9教科について5段階(5・4・3・2・1)
- ・観点別学習状況の評価・・・9教科全27項目の観点別に3段階(A・B・C)

- その他の記載事項

- ・総合的な学習の時間の内容及び評価

第3学年における総合的な学習の時間で設定した課題および内容と、学習状況・成果に対する評価を文章で記入する。

- ・諸活動の記録

特別活動等及びその他の学校内外の活動から特筆すべき活動を取り上げ、その活動の事実や実績を所見を除いた客観的な記録として記入する。
顕著な成果がなくても、積極的に取り組んでいる活動、人間形成上好ましい影響がある活動やほかの生徒に良い影響を与える活動、3年間継続的に取り組んでいる活動なども記入することができます。
スピーキングテストの結果もこの欄に記載されます。

推薦選抜

○一般推薦, 特別推薦(文化・スポーツ等, 理数等)の3種類です。いずれも校長推薦が必要です。

- ・**推薦枠** 学科ごとに決まった範囲内で, 各学校が設定します。
詳しくは「入学者選抜実施方法一覧」で確認しましょう。
- ・**一般推薦** ①集団討論, 個人面接(どちらも必須だが, 集団討論は実施しない学校もある)
②小論文または作文・実技・高校設定の検査からいずれか1つ以上
- ・**文化・スポーツ等特別推薦**
①面接(個人または集団) ②実技, ③高校設定の検査(小論文または作文等)
①②は必須, ③は必要に応じて実施することができる。
- ・**理数等特別推薦**
①個人面接 ②小論文 ③科学分野等の研究に関するレポートに関する口頭試問

○いずれも調査書点と①~③の得点の各得点を総合した成績で選考します。
調査書点は, 各教科の評定と観点別学習状況の評価のいずれかを得点化します。

第1次・分割前期募集

- 学力検査**は国語・数学・英語・理科・社会の5教科。
 - ・体育科・芸術科は国数英の3教科と実技検査を実施。
 - ・一部の学校では, 3教科(国数英)の問題を自校で作成し, 共通問題の理・社と合わせて実施。
[自校作成]日比谷・戸山・青山・西・八王子東・立川・国立・新宿・墨田川・国分寺
※国際高校は英語問題のみを自校作成
- スピーキングテスト**はA:20点, B:16点, C:12点, D:8点, E:4点, F:0点
- その他の検査** 高校によって, 面接・小論文または作文・実技検査を実施。

選考は上記検査・調査書の点数を総合した成績, 及びその他必要な資料により行う。

◆学力検査点・調査書点・総合得点の算出方法

【学力検査】各教科100点(一部傾斜あり)

- ①[体育科・芸術科]学力検査は国数英の3教科 ⇒ 300点満点
- ②[その他の学科]学力検査は国数英理社の5教科 ⇒ 500点満点

【調査書点】学力検査教科の評定の合計+その他の教科の評定の合計×2倍

- ①75点満点 ②65点満点

【総合得点】**学力検査点:調査書点を, ①6:4 ②7:3で1000点満点に換算。**
点数化したスピーキングテスト結果(20点満点)を加えた合計を**総合得点**とする。

その他に実施した検査があれば得点化して加点する。

【東京都立高校入試 近年の動向】

【2023年度～】ESAT-Jの活用

○2023年度入学者選抜から英語スピーキングテスト(ESAT-J)の結果を活用し、英語4技能の「話すこと」の能力の判定が入試に加わることになりました。

◆そもそも【ESAT-J】とは？

都内公立中学校の3年生全生徒を対象とした、中学校で学んだ「話すこと」の能力を測る**アチーブメントテスト**。タブレット端末を使用して、解答音声を録音する方式で実施。

◆入試にはどう関係するの？

第一次募集・分割前期募集で英語学力検査を課す学校において活用。

(エンカレッジスクール, チャレンジスクール, 英語学力検査を実施しない学校は対象外)
公立中学校で実施したESAT-Jの結果はA~Fで段階評価されるが、この**AからFまでの6段階で提出された評価**を、次のとおり20点満点~0点に**点数化**。

【評価:取り扱う点数】A:20点, B:16点, C:12点, D:8点, E:4点, F:0点

点数化したESAT-Jの結果を「学力検査の得点と調査書点の合計(1000点満点)」に加えることで**総合得点(1020点満点)**を算出。

最終的に第一次募集・分割前期募集は、この総合得点(1020点満点)+学校裁量により実施されたその他の検査の得点=**総合成績**によって選考される。

◆ESAT-Jの不受験の場合は？

不受験者については「仮のESAT-J結果」を算出し、点数化した上で加点することで不利にならないよう取り扱う。(不受験者…インフルエンザ等に罹患した者や出席停止措置になった者及びやむを得ない理由により受験することができなかった者、実施時点で都立中学校に在籍していなかった者等)

【仮のESAT-J結果の算出】

英語学力検査の得点により順位を決め、原則当該不受験者の上下5名ずつ(合計10名)以上の受検者を集計する範囲として定める。集計する範囲の受検者それぞれのESAT-J点数の平均値により、当該不受験者の値を求める。

[平均値] 18点以上	→	A
14点以上18点未満	→	B
10点以上14点未満	→	C
6点以上10点未満	→	D
2点以上6点未満	→	E
2点未満	→	F

※詳しい不受験者の換算方法については東京都教育委員会のHP等でご確認ください。

【2024年度～】

男女別定員から男女合同選抜へ

入学者選抜の変更内容

■男女別定員とは？

東京都立高校は単位制・コース制を除く全日制普通科で男女別定員を定めています。高校の全体定員を男子・女子に分け、それぞれで選抜を行うため、男女で合格最低点に格差が生じます。かつては他県でも男女別定員を定める県はありましたが、共学校は徐々に男女合同へと移行し、東京都だけに残っています。

■男女別定員の緩和措置とは？

男女別定員による合格最低点の格差を是正するため、1998年度入試から導入された制度です。学力検査に基づく選抜（第一次・分割前期募集）において、募集人員の1割を男女合同の総合成績により合格者を決める緩和策になります。

各高校が実施するかどうかを毎年決めているので、導入校数は変動しますが、おおむね4割前後の高校で実施していました。

■2024年度入試までの流れ

緩和措置により一定の効果は得られたものの、性別によって倍率が異なることや、合格基準が変わるといった課題の解決のため、以下の3段階で男女合同選抜に移行することが2021年に決定しました。

2022年度	男女別定員制の緩和を全校で実施（募集人員の10%）
2023年度	男女別定員制の緩和を全校で実施（募集人員の20%）
2024年度	推薦選抜・学力選抜において男女合同選抜へ移行

2024年度選抜の注意点

一般選抜は緩和措置が2022年度から10%、2023年度から20%となり、男女格差は大きく解消されました。男女の倍率と合格ラインが近づいたことが確認されています。2024年度で特に注意が必要なのは推薦選抜です。男女別定員から男女合同選抜になることで男子の不合格者が増加する見込みです。また一般選抜でも女子に人気の高い高校では今年度と比較して男子の不合格者が増える見込みです。自分の志望校の動向については、よく確認しておきましょう。